

スタートアップガイド(OMAP4編)

プロジェクトの作成 (OMAP4編) 3

本スタートアップガイドはTexas Instruments社 OMAP4の
プロジェクト作成方法を説明しています。
上記MPUは、adviceLUNAのみサポートしています。

はじめに

「advice シリーズスタートアップガイド」(以下、本ガイド) は、advice シリーズ製品を購入してからデバッグを開始するまでの一連の操作を順に示したドキュメントです。

advice シリーズ製品でデバッグ環境を構築する前に、お読みください。

✓ 本ガイドを含むマニュアルは、ソフトウェアのインストールフォルダの `manual` フォルダ (標準では「C:\¥YDC¥microVIEW-PLUS¥manuals」) にインストールされます。

アイコンについて

本ガイドで使用しているアイコンには、以下の意味があります。



特に重要な情報を記載しています。操作する際は十分に注意してください。



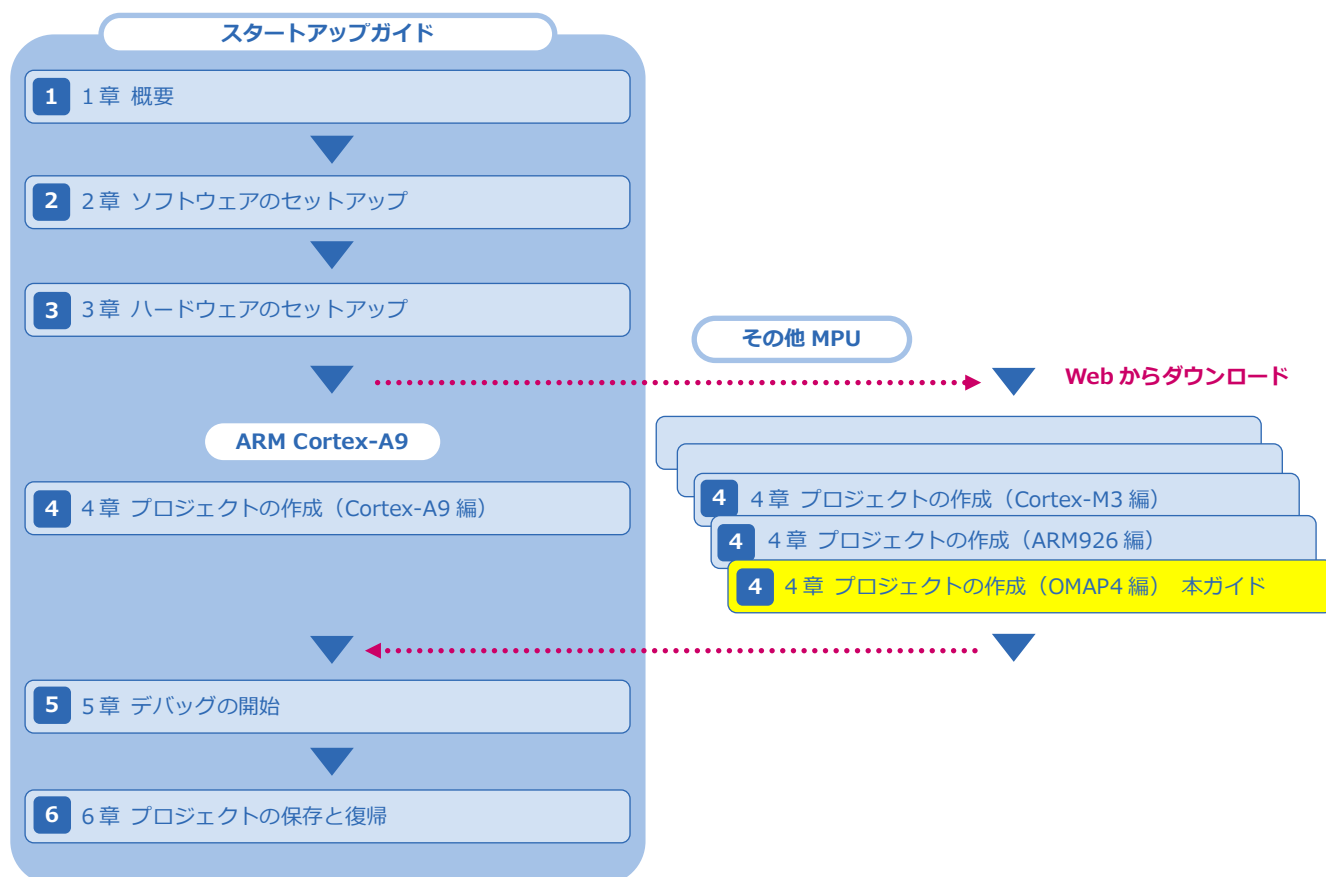
操作を進める上で役に立つ情報やアドバイスなどの補足事項を記載しています。



本ガイドのほかのページやほかのマニュアルなどの参照情報を記載しています。

本ガイドの位置づけについて

本スタートアップガイドは、デバッグ対象の MPU を **Texas Instruments 社 OMAP4** としたプロジェクト作成方法の説明をしています。



注意事項

- 本ガイドで使用している画面は、**Windows 7** の環境で作成しています。ほかの環境をお使いの場合、表示や操作手順が異なることがあります。
- advice シリーズの製品を安全にお使いいただくために重要な情報は、『adviceLUNA ユーザーズマニュアル（固有編）』（HLX600_podm_jpn.pdf）に記載されています。
- 本ガイドに記載されている会社名・製品名は、各社の登録商標または商標です。

4章 プロジェクトの作成 (OMAP4編)

microVIEW-PLUS は、プロジェクトファイル（拡張子は「.mvp」）に、adviceLUNA やデバグガの設定状態を記録します。新規にデバグを開始するには、最初にこのプロジェクトファイルを作成する必要があります。



本ガイドでは、Texas Instruments 社 OMAP4430 のマルチコアデバグ（SMP）プロジェクトを作成する手順について説明しています。

OMAP4430 のプロジェクトの作成は、ホスト PC に SLX621 インストールキットと SLX685 ソフトウェアライセンスがインストールされている必要があります。

➡ その他 MPU のプロジェクトを作成する方法については、以下の URL より、MPU 別のファイルをダウンロードしてそちらを参照してください。

『https://www.dts-insight.co.jp/support/support_advice/?m=AdviceDocument&item=1』



- プロジェクトファイルが保存してある場合、既存のプロジェクトファイルを開くことで、前回保存した設定状態から再びデバグを開始できます。

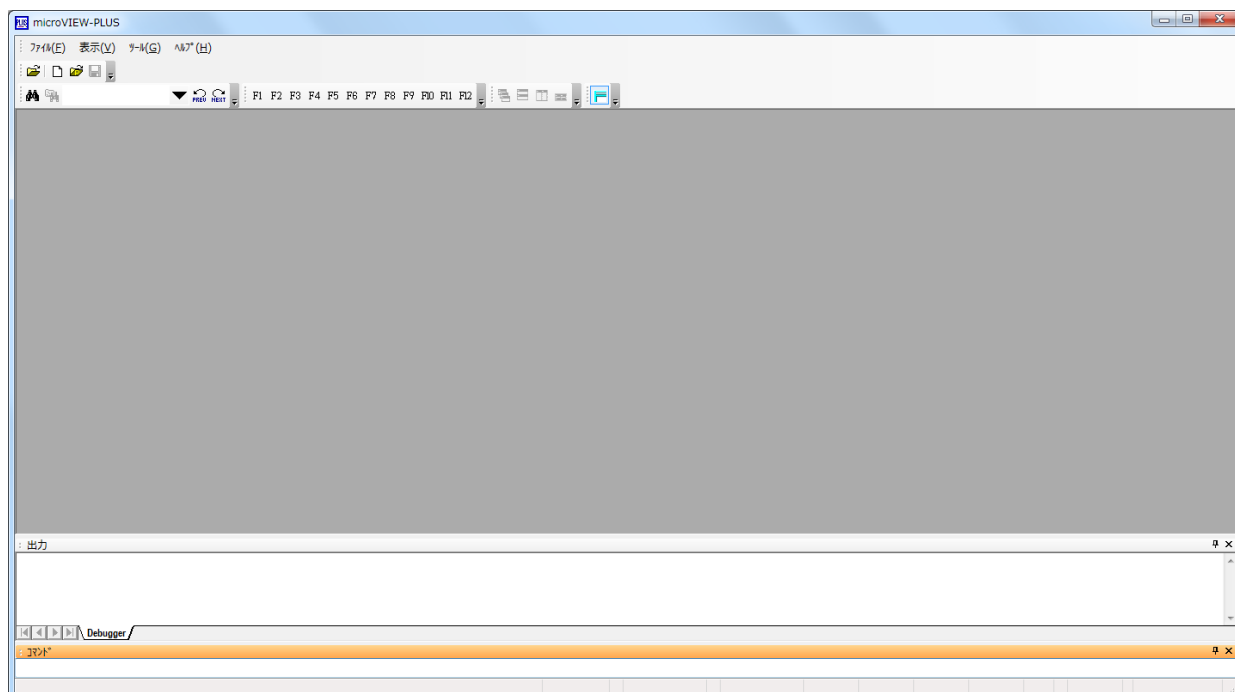
4-1 microVIEW-PLUSを起動する

最初に、microVIEW-PLUS を起動する手順について説明します。

手 順

1. Windows の [スタート] メニューから、[すべてのプログラム] - [YDC] - [microVIEW-PLUS] - [microVIEW-PLUS] をクリックします。

「microVIEW-PLUS」が起動します。



4-2 新規でプロジェクトを作成する

デバッグを開始する前に、microVIEW-PLUS でプロジェクトを新しく作成します。

手順

1. microVIEW-PLUS のメニューから [ファイル] – [ICE 接続] をクリックします。

「ICE 接続」画面が表示されます。

2. 新しいプロジェクトの名称と接続先を設定します。

① プロジェクトの名称を設定します。

② microVIEW-PLUS の作業フォルダを指定します。

③ 選択先種別には [ICE] が設定されています。

④ 接続先の advice シリーズ機種を選択します。

[adviceLUNA]を選択してください。

⑤ 接続先の advice シリーズ機種のモデル名を選択します。

[HLX621]を選択してください。

⑥ マルチコアのユーザーシステムをデバッグする場合、マルチコア構成を選択します。

[SMP 構成 (複数のコアを 1 画面でデバッグ)] を選択してください。

⑦ [接続先] に表示されている現在有効な USB 機器のシリアル番号と ICE 型名から、接続する ICE を選択します。

[更新] をクリックすると、表示が更新されます。

⑧ [OK] をクリックします。

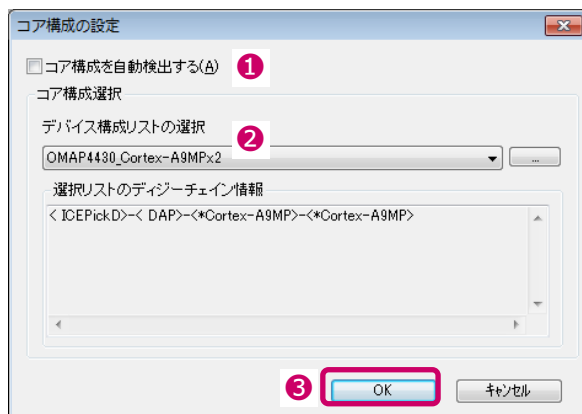
「コア構成の設定」画面が表示されます。



ICE のファームウェアバージョンが古い場合、「Firm Updater」画面が表示されます。[インストール] をクリックすると、ファームウェアのインストールに進みます。

現在のファームウェアのまま使用するには [スキップ] をクリックしてください。ただし、ファームウェアを更新しないと、正しく動作しない場合がありますので、注意してください。

3. コア構成の設定を行います。



- 1 [コア構成を自動検出する] にチェックを付けると、ICE がコア構成を自動検出します。

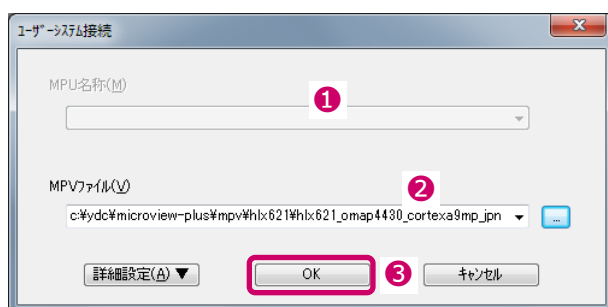
チェックをはずしてください。

- 2 デバイス構成リストからユーザーシステムに合った構成を選択します。

[OMAP4430_Cortex-A9MPx2]を選択してください。

- 3 [OK] をクリックします。
正常に接続されると、「ユーザーシステム接続」画面が表示されます。

4. ユーザーシステムの MPU に対応した MPU 固有情報ファイルを設定します。



- 1 MPU 名称を選択すると、[MPV ファイル] が自動で選択されます。

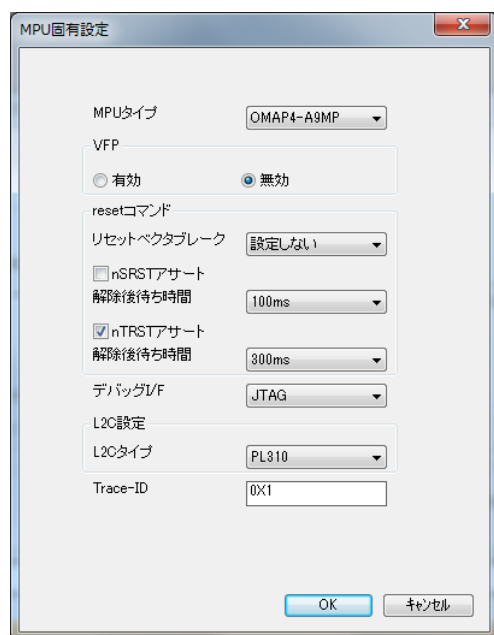
- 2 ユーザーシステムの MPU に対応した MPU 固有情報ファイル名（拡張子「.mpv」）を指定します。

[hlx621_omap4430_cortexa9mp_jpn.mpv]を選択してください。

- 3 [OK] をクリックします。
「MPU 固有設定」画面が表示されます。

- ✓ MPV ファイルは、microVIEW-PLUS のインストールフォルダ（初期設定では、C:\¥YDC¥microVIEW-PLUS）の「¥mpv¥HLX621」フォルダにインストールされています。

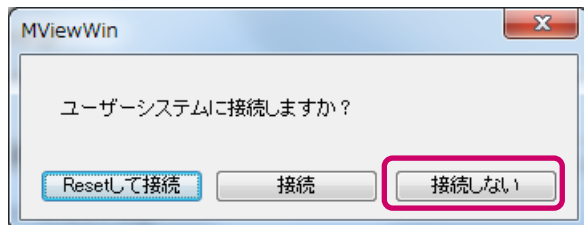
5.「MPU 固有設定」画面では、ユーザーシステムに合わせて MPU 固有の情報を設定し、[OK] をクリックします。



デフォルト設定で[OK]をクリックしてください。

ユーザーシステムへの接続選択画面が表示されます。

6. ユーザーシステムへの接続方法として、以下のいずれかのボタンをクリックします。

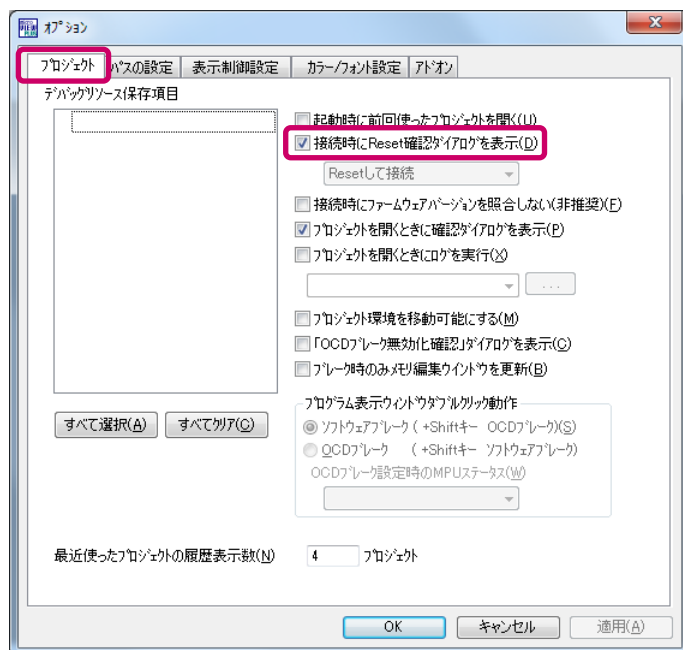


[接続しない]をクリックしてください。

ボタン	概要
Reset して接続	ICE とユーザーシステムの接続を有効にして、MPU をリセットします。この状態では、メモリ操作や実行制御などのデバッグ操作が可能です。
接続	ICE とユーザーシステムの接続を有効にして、MPU をブレイク状態にします。この状態では、メモリ操作や実行制御などのデバッグ操作が可能です。
接続しない	ICE とユーザーシステムの接続が無効のまま、プロジェクトが開かれます。この状態では、メモリ操作や実行制御などのデバッグ操作を行えません。



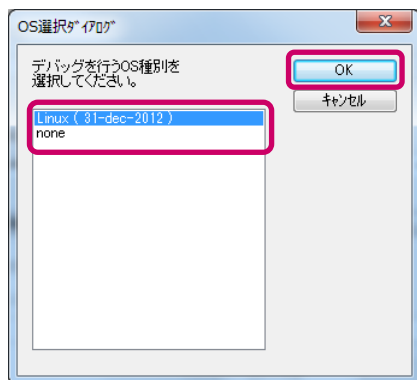
この画面は、[ツール] - [オプション] で表示される「オプション」画面で、「プロジェクト」タブの「接続時に Reset 確認ダイアログを表示」にチェックしている場合に表示されます。



OS オプション (Linux Support Library) ライセンスをインストールした場合は、「OS 選択ダイアログ」が表示されます。

7. Linux Support Library 機能を使用する場合は、[Linux] を選択して [OK] をクリックします。

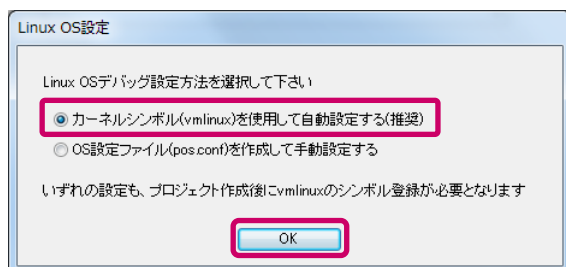
➡ Linux Support Library の詳細については、『Linux サポートライブラリユーザーズマニュアル』(mvwPLUS_Linuxj.pdf) を参照してください。



[Linux (zz-yyy-20xx)]を選択して、[OK]をクリックしてください。

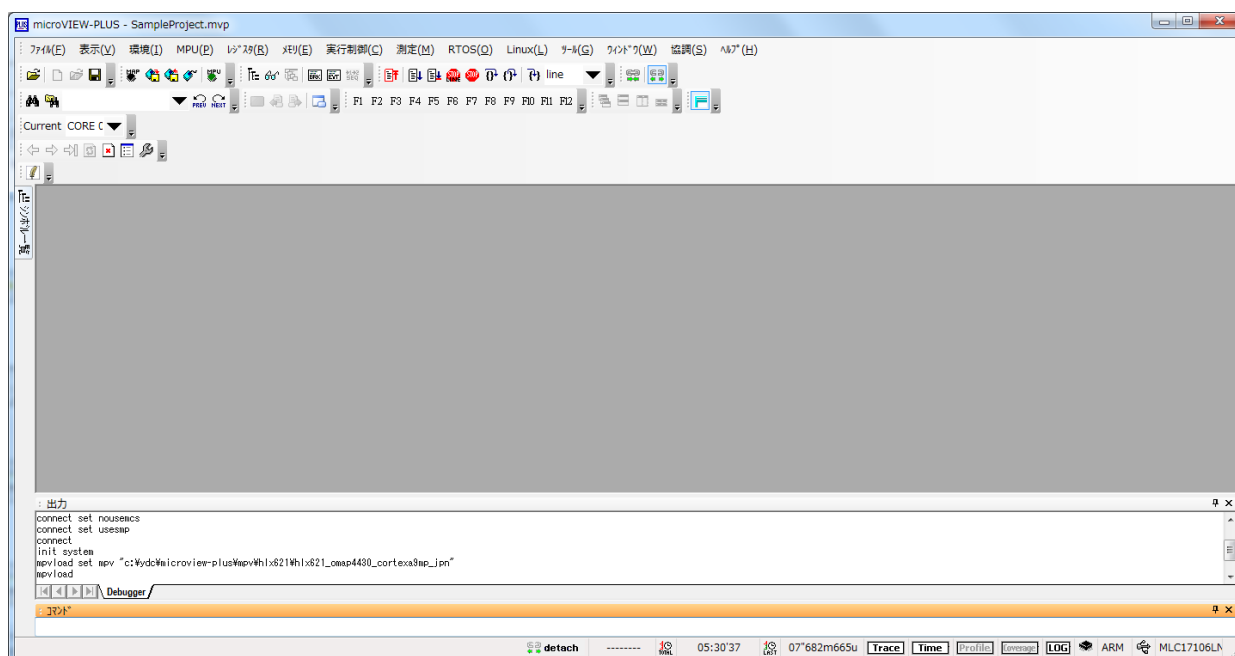
「Linux OS 設定」ダイアログが表示されます。

8. Linux OS のデバッグ設定方法を選択して、[OK] をクリックします。



[自動設定する(推奨)]を選択して、[OK]をクリックしてください。

新しいプロジェクトが開かれます。



4-3 初期化スクリプトファイルを実行する

OMAP 4 のユーザーシステムは、初期化スクリプトファイルを実行し、バイパス設定や各種メモリの初期化などを行う必要があります。

➡ 詳細については、『microVIEW-PLUS ユーザーズマニュアル固有編』(HLX600_jpn.pdf) の『2. 初期設定手順』の『2.6 新規プロジェクト作成』を参照してください。

手順

1. メニューから [ファイル] - [ログを実行] を選択します。

「ログの実行」ダイアログが表示されます。

2. 初期化スクリプトファイルを選択して、[OK] をクリックします。



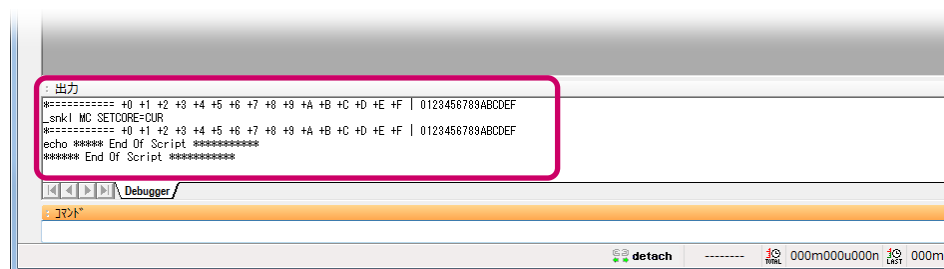
初期化スクリプトファイルは、microVIEW-PLUS のインストールフォルダ（初期設定では、C:\¥YDC¥microVIEW-PLUS）の「¥mpv¥HLX621」に保存されています。



このボタンをクリックして初期化スクリプトファイルを選択します。

[OMAP4430_Cortex-A9MPx2.mvw]を選択して、[OK]をクリックしてください。

初期化スクリプトが実行されます。





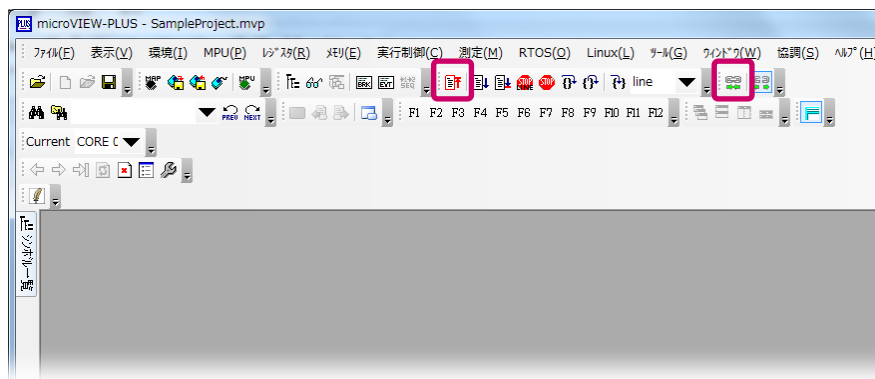
「End Of Script」と表示されれば、初期化スクリプトファイルの実行は完了です。

4-4 adviceLUNAとユーザーシステムの接続を有効にする

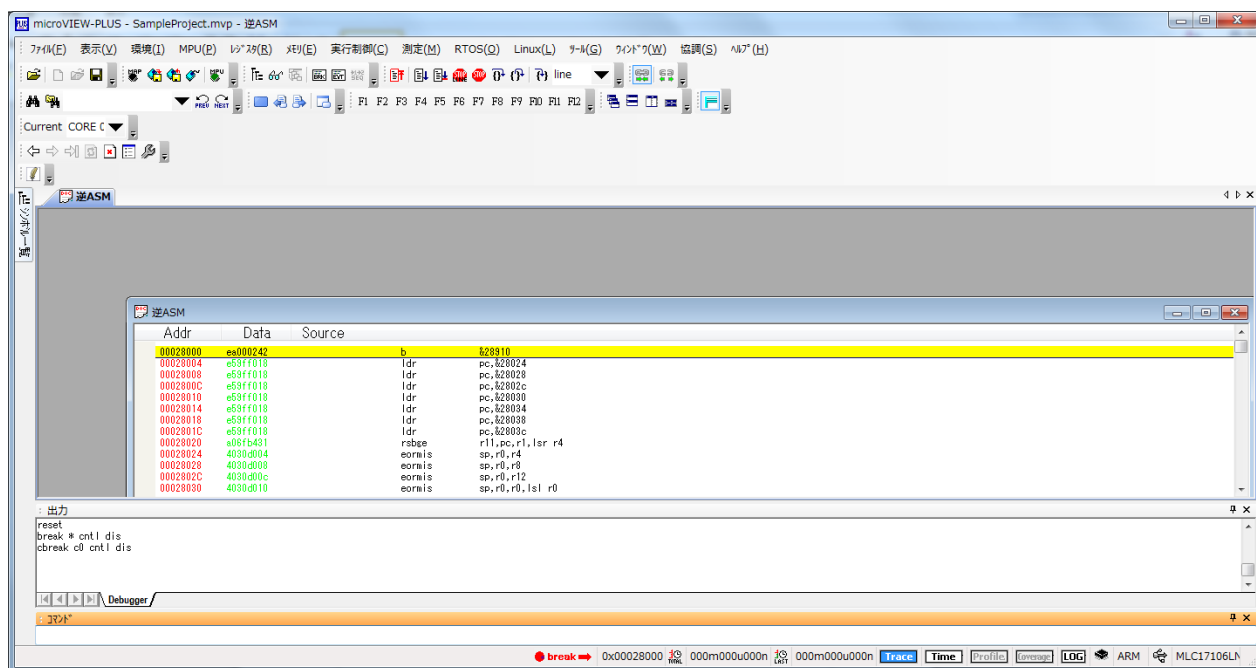
adviceLUNA とユーザーシステムの接続を有効にします。

手 順

1. メニューから【実行制御】 - 【Reset】を選択するか、ツールバーの【Reset】ボタン  もしくは【Attach】ボタン  をクリックします。



adviceLUNA とユーザーシステムの接続が有効になります。



改訂履歴

版	発行日付	変更内容
第 1 版	2013.06.21	新規作成
第 2 版	2017.04.13	新商号対応
第 3 版	2019.12.20	マルチコアサーバ定義ファイルの説明を削除

adviceシリーズスタートアップガイド(OMAP4編)

株式会社D T S インサイト

URL : https://www.dts-insight.co.jp/support/support_advice/

2019 年 12 月 20 日 第 3 版発行